

第2学年国語科学習指導案

日 時 平成18年11月9日(木)5校時

場 所 遠野市立青笹小学校 2年教室

児童数 18名

授業者 多田 奈美江

1 単元名 ようすを考えて読もう

教材名 「お手紙」(物語)

2 単元について

(1) 児童について

児童はこれまでに「ふきのとう」の学習で、あらすじ(いつ・だれが・どこで・何をした)を押さえて読むこと、会話文から気持ちを考えることを学習した。また、「スイミー」では、人物の気持ちや場面の様子などについて想像を広げながら読む学習をした。これらの学習の中で、重要語句や文を視写し、想像したことを書き込むなどの活動を通して、少しずつ人物の気持ちを想像することができるようになってきた。しかし、語彙が少ないため、自分なりの言葉で豊かに想像を広げて読むことが苦手な子も少なくない。言葉一つ一つに敏感になったり、友達と読み深め合ったりする学習が必要である。

読書については、物語の本に興味を持って読む児童は増えてきた。今後は週末読書などを通して、感想を書く力を伸ばしていきたい。

(2) 教材について

この物語は、まだ誰からも、一度も手紙をもらったことのないがまくんの悲しい気持ちに同情したかえるくんが、がまくんに手紙を出し、その手紙と一緒に待つという、二人の心の触れ合いがほのぼのと伝わってくる作品である。

親しみの持てる登場人物や挿絵、ほのぼのとした会話のやり取りは子どもたちを引きつけ、二人の心の触れ合いを楽しく、想像豊かに読み進めていくことができるものとする。また、本教材は文章が全体に簡潔で分かりやすく、一文も平均して短い。そして、かえるくんとがまくんの会話が中心に展開されていて、その中にそれぞれの人柄や気持ちが表れている。この会話文を通して、場面の様子や人物の性格、心情を広く想像させることができる作品である。

(3) 指導にあたって

場面ごとに挿絵を活用しながら、言葉から豊かにイメージを描かせながら読みをすすめていきたい。会話文を多く用いているので、誰の言葉かを確認しながら音読をして、登場人物の言動を追いかけ、両者の気持ちを感じ取らせたい。

また、重要な語句や文を視写し、登場人物になりきって自分の言葉で書き込みをすることで、人物の気持ちを想像させ、一人一人の読み取りを深めていきたい。

3 単元の目標・評価規準

「だれが・どうした」に気をつけて、登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読んだり、声に出して読んだりし、二人の友情のお話を楽しむ。

主語と述語の役割と言い方を知り、気をつけて読んだり書いたりする。

- ・場面の様子やがまくん、かえるくんの心情について想像しながら読む。(読 ウ)
- ・がまくんやかえるくんの気持ちがよく表れるように、語や文のまとめり、声の大きさなどに注意して読む。(読 エ)
- ・登場人物にあてて書く手紙であることを考えながら書く。(書 ア)
- ・主語と述語との関係に注意して読んだり書いたりする。(言 エ)

4 単元の指導・評価計画(18時間)

- 1年 こえにだしてよもう「くじらぐも」
おはなしをたのしもう「たぬきの糸車」
- 2年 みんなでよもう「ふきのとう」
本と友だちになろう「スイミー」

次・時	学習目標	学習内容	評価規準
一次1	・全文を通読し、初発の感想を書くことができる。	・これまでの経験を振り返りながら、登場人物の行動について、心に残ったことやおもしろかったことなどについて書く。	(関)自分なりの感想をもち書くことができる。ノート・発言
二次2	・だれの会話文であるかに注意しながら、全文を読むことができる。	・だれの会話文かを正しく指摘する。 ・場面分けをし、学習計画を立てる。	(読)だれの会話文であるか指摘することができる。発言・ノート
3	・手紙をもらえないがまくんの悲しい気持ちと、それに共感するかえるくんの気持ちを想像することができる。	・「お手紙なんか」「空っぽさ」「ふたりとも」に着目し、がまくんとかえるくんの気持ちを想像する。	(読)がまくんの悲しい気持ちと、それに共感するかえるくんの気持ちを想像することができる。ノート・発言
4	・がまくんを早く喜ばせたいと思うかえるくんの気持ちを想像することができる。	・「がまがえるくんへ」「とび出しました。」に着目し、かえるくんの急いでいる様子を想像し、がまくんを早く喜ばせたい気持ちを想像する。	(読)がま君を早く喜ばせたいかえるくんの気持ちを想像することができる。ノート・発言

5 6	・がまくんを励ますかえるくんとあきらめているがまくんの気持ちを想像することができる。	・二人の会話文を対比させ、それぞれの気持ちを想像する。 ・「今まで～。」「まどからのぞきました。」に着目し、あきらめてなげやりながまくんと、お手紙が届いてがまくんに早く元気になってほしいかえるくんの気持ちを想像する。	(読)がまくんを励ますかえるくんとあきらめているがまくんの気持ちを想像することができる。ノート・発言
7	・お手紙の内容を知り、幸せになった二人の気持ちを想像することができる。 (本時)	・手紙文や「ああ～。」「～ととてもしあわせな気持ちで～」の表現に着目し、お手紙の内容を知り、幸せになった二人の気持ちを想像する。	(読)幸せになった二人の気持ちを想像することができる。ノート・発言
8	・お手紙をもらって喜んでいるがまくんの気持ちを想像することができる。	・「四日たって」「とてもよこびました。」に着目し、お手紙をもらって、喜んでいいるがまくんの気持ちを想像する。	(読)お手紙をもらって喜んでいるがまくんの気持ちを想像することができる。ノート・発言
9 10	・登場人物の言動や気持ちを考え、音読を練習することができる。	・動作や表情も取り入れながら、楽しく音読を練習する。 ・グループを作り、役割を決める。 ・グループごとに読みの練習をする。	(読)登場人物の言動や気持ちを考え、音読を練習することができる。発表
11	・自分なりに工夫して音読を発表することができる。	・音読発表会をする。 ・グループごとに発表し、友達のよかったところを見つける。	(読)自分なりに工夫して音読を発表することができる。＜発表＞
三次 12 13	・一人の登場人物にあてて、思ったことを手紙に書くことができる。	・だれに書くのか、何を書くのかを決めてから手紙を書く。	(書)一人の登場人物にあてて、思ったことを手紙に書くことができる。ノート

14	・書いた手紙を友達の前で発表することができる。	・友達の書いた手紙に興味を持って発表を聞く。	(関)書いた手紙を友達の前で発表することができる 発表・態度
四次 15 16 17 18	・「何が(だれが)が主語、「どうした・どんな・なんだ」が述語であることを知り、主語と述語が整った文を書くことができる。	・主語や述語がないと、状況や気持ちが正しく相手に伝わりにくいことを、挿絵から理解する。 ・絵をもとに、文を書いたり、発表したりする。	(書)主語と述語について知り、それらが整った文を書くことができる。 ノート・発表

2年 お話を楽しもう「スーホの白い馬」

3年 本と出会う、友だちと出会う「きつつきの商売」

5 本時の指導

(1) 本時の目標

お手紙の内容を知り、幸せになった二人の気持ちを想像することができる。

(2) 仮説とのかかわり

ア 手立て 「書く活動」にかかわって

【とらえる書く】

課題をノートに書くことで、課題を明確に捉えさせる。

【わかり合う書く】

お手紙の内容から、幸せな気持ちになったことをおさえ、手紙文を視写させる。お手紙の中から特にがまくんが感動した部分にサイドラインを引かせ、書き込みをさせる。

【見つめ直す書く】

吹き出しに気持ちを想像させて書かせることで、まとめとする。自分の言葉で書き込んだものを発表させ、聞き合うことで想像を広げさせる。

イ 手立て 「支援や評価」にかかわって

「わかり合う書く」で書いたことを自信を持って発表できるように机間指導の中で声がけをしていきたい。また、ノートの書き込みやまとめに目を通して評価し、コメントを添えて返すことで達成感を抱かせる。

(3) 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価と支援
とらえる 5分	1 学習課題を把握する。 しあわせになったふたりの気持ちをそうぞうしよう。 【とらえる書く】 目的意識	<ul style="list-style-type: none"> ・がまくんを励ますかえるくんとあきらめているがまくんの様子を、前時のまとめの発表を聞くことにより想起させる。 ・課題を視写した後、一斉音読をし、明確につかませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題が分かったか。 発言・ノート
見通す 5分	2 手がかりをおさえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・かえるくんとがまくんの「ようす」「会話文」を基に考えていくことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・解決の見通しをもつことができたか。 発言
読み深める 23分	3 お手紙の内容を知り、幸せになった二人の気持ちを想像する。 ・サイドライン ・視写 ・書き込み 【わかり合う書く】 自己解決力 5 二人の気持ちについて話し合う。 【わかり合う書く】 有用感	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を活用しながら、二人が悲しい気分から幸せな気持ちに変わったことを押さえる。 ・かえるくんが書いたお手紙の内容でがまくんが感動したところ（親愛なる・親友）にサイドラインを引かせる。 ・教師と同じスピードで手紙文を視写させる。 ・「親愛なる」「ぼくの親友」にかえるくんの気持ちを書き込ませる。 ・「親愛なる」「ぼくの親友」に込められたかえるくんの気持ちを話し合う。 ・「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」をがまくんの気持ちを想像しながら音読させる。 ・「ふたりとも」に着目し、がまくんだけでなく、かえるくんも幸せな気持ちであることを確認させる。 	<p>A 前時までの二人の気持ちと比べながら、かえるくんの気持ちを想像し、書いている。</p> <p>B お手紙の内容からかえるくんの気持ちを想像し、書いている。</p> <p>Cへの支援 前時までの二人の様子や気持ちを想起させ、考えさせる。</p> <p>発言・ノート</p>

ま と め る 12 分	6 本時の学習のまとめをする。 ・吹き出しにまとめる。 【見つめ直す書く】 内容理解 ・次時の内容を知る。	・板書を振り返りながら、二人の気持ちを確認める。 ・かえるくんがまくんの気持ちを吹き出しにまとめさせる。 ・学び方についても振り返らせ、次時の学習につなげる。	・幸せになった二人の気持ちを想像できたか。ノート
---	---	---	--------------------------

(4) 本時の評価規準

お手紙の内容を知り、幸せになった二人の気持ちを想像することができる。

< 具体的評価規準 >

- A 「ようす」「会話文」が分かり、前の場面の二人の気持ちと比べながら、幸せになった二人の気持ちを想像することができる。
- B お手紙の内容から、二人が幸せになった気持ちを想像することができる。
- C (努力を要すると判断する児童) への支援
 前時までの二人の様子や気持ちを想起させ、幸せになった二人と同化させながら考えさせる。

(5) 板書計画

お手紙

 しあわせな気持ちでお手紙をまつ二人のようすを考えよう。

 ようす 会話文

たいせつな 大すきな
 『親愛なる がまがえるくん』
 一番の友だち
 ぼくは、きみが ぼくの親友で
 あることを、うれしく思っています。
 きみの親友 かえる。』

「ああ。
 とても いいお手紙だね。」

まとめ
 ふたりとも、とても しあわせな気持ちで、そこに
 すわっていました。

がかえるくん、ありがとう。かえるくんが友だちで
 よかった。
 かよるこんでもらってうれしいな。がまくんが元気
 になってよかった。

